

タイトル

『汐製菓会社の新作84 バウムクーヘン』

ン3』

シーン①：社長室での発案

【汐製菓会社・社長室。デスクには資料と試作品が山積みされ、汐（30代）が資料を熱心にめくっている。塩田（30代）は、少し心配げに汐の様子を伺っている。】

汐「（独り言）バウムクーヘン、バウムクーヘン…でも普通のバウムクーヘンじゃ面白くないしなあ。」

塩田「（恐る恐る）社長、また何か新しい発案ですか？」

汐「ああ、塩田さん。実はそうなんだ。次の新作で『日本の良さ』と『予想外』のインパクトを打ち出したいさ。」

塩田「(やや警戒して)また、すごいアイデア
なんででしょうね？前回の“サバ味クッキー”も
話題にはなりましたが…あれ、賛否両論ど
ころか…。」

汐「何事も挑戦が大事なんだ！今回はバウ
ムクーヘンで行く。バジルとココア味で勝負
だ！」

塩田「(驚いて)バジルとココア…ですか？和な
のか洋なのか、甘いのかしょっぱいのか…さっぱ
りわかりません。」

汐「だからいいんだよ！それが面白いところ
だ。日本の独自性を活かしながらも、これま
で誰も食べたことがない味。絶対クセにな
る！」

塩田「(少しあきれつつも)…わかりました。
社長のアイデア、実はクセになることもあるの
で…。早速、試作してみますか？」

【汐の熱意に根負けして、塩田も渋々ながら納得し、試作に向かう二人。】

シーン2：開発室での試作

【製菓開発室。社員たちが集まっており、バジルとココアの材料を前に戸惑いの表情。】

開発担当 A「社長、本当にバジルとココアを入れるんですか？味の組み合わせが…ちょっと、挑戦的すぎませんか？」

汐「その通りだよ。誰もやってないことをやって、初めて“話題”になるんだ！バジルの爽やかさとココアの甘さで、二重の驚きが楽しめるってわけさ！」

塩田「（社員たちに小声で）ま、社長の思いつき、意外にヒットすることもありますから…大丈夫、大丈夫。」

【不安そうな表情の社員たちが、洪々試作を開始する。】

開発担当B「（半ば諦め顔で）じゃあ、層を交互に重ねて…渦巻き模様にすれば見た目も面白いかもしれませんね。」

開発担当C「まあ、SNS映えはするかもしれませんが…どんな味になるんだろう。」

【ようやく完成した試作品がテーブルに並べられ、全員が恐る恐る一口試食を開始する。】

シーン③：試作品の試食会

【会議室にて。試作された「バジルコア・バウムクーヘン」を、社員たちが興味半分、不安半分で試食し始める。】

社員A「少し緊張しつつ一口（うーん、最初はココアの甘みが…あれ、でも後からバジルが…）」

社員B「驚いて（これ、クセになるかも？バジルが意外とスツキリして、ココアの甘さとバランスいいですね。」

開発担当C「（小声で）でも、普通のバウムクーヘンに比べて個性強すぎじゃない？万人ウケするのかな。」

塩田「（考え込み）確かに…少し挑戦的にも。でも、インパクトはあるし、意外性もある。お客様も気に入ってくれるかも。」

汐「よし、これで行こう！すぐに試食会を開催して、消費者の反応を見てみようじゃないか！」

【社員たちは困惑しつつも、試作品のクオリティには一定の満足感を持ち、試食会に向けて準備を始める。】

シーン④：国内の試食会での反応

【ショッピングモールで試食会が開催され、ブースには「バジルココア・バウムクーヘン」が並んでいる。しかし、来場者の反応は微妙。】

通行人A「（友人に）ねえ、バジルとココア味のバウムクーヘンって、どう思う？」

通行人B「なんか…ちょっと変わってるよね。」

お菓子は普通が一番っていうか…」

試食スタッフ「どうぞ、新作のバウムクーヘンです。日本のバジルとココアを組み合わせたユニークな味わいです！」

通行人〇「一口試食して微妙な顔（んー…
なんかよくわからない味…。悪くはないけど、
ちよつと好みじゃないかな。」

【一部のお客様からは好評だが、大多数は困惑した表情を浮かべている。】

塩田「（やや落胆して）社長、もしかして…ちよつと冒険しすぎたかもしれませんね。みなさん、微妙そうな反応ですし…」

汐「（ポジティブに）いや、こういうのは時間がかかるんだ！それに、日本人には難しくても、海外にはきつと響く味さ！」

塩田「（苦笑して）そうですね…。きつと、どこかに理解してくれる人がいるかもですね。」

【塩田は、やや不安げにしながらも、汐の樂觀的な言葉に少し励まされる。】

シーン5:ヨーロッパの展示会にて大好評

【ヨーロッパの展示会場。汐製菓のブースが設置され、海外のバイヤーや一般客が「バジルコア・バウムクーヘン」に興味津々で集まっている。】

ヨーロッパのバイヤーA「これは…日本から来たの？バジルとココア？斬新だね。試してみよう。」

一般客B「(試食して)おお、意外な組み合わせだけど、なんて新鮮な味なんだ！バジルの風味がココアとよく合う！」

バイヤーC「これは、絶対うちの店舗で話題になるよ！特に若い世代にウケそうだ。」

汐「(満足げに)そうだろう？これが日本の『独自性』ってやつさ！食の新しい発見を楽しんでくれ！」

塩田「（驚きと喜びが入り混じった表情で）まさか、こんなに好評だなんて…国内での微妙な反応が嘘みたいですね。」

汐「だから言ったら？人がどこで何に興味を持つかはわからないもんだよ。これで世界デビュー決定だな！」

【現地メディアにも取り上げられ、SNSでも「日本の革新的なバウムクーヘン」として大いに話題になる。】

シーン9：日本への帰国と新たな挑戦

【日本に戻った汐と塩田が社長室で次の新作について打ち合わせをしている。】

塩田「（感嘆しつつ）やっぱり、社長のアイデアは捨てたもんじゃないですね。日本では微妙でも、海外でこんなに人気が出るなんて。」

汐「そうだ、だから次は『抹茶とカレー』のバ
ウムクーヘンなんてどうかな？これも絶対にウ
ケると思う！」

塩田「（心底驚いて）…ま、また奇抜すぎるよ
うな…。でも、わかりました。覚悟決めてつい
ていきます！」

【次の挑戦を胸に、二人は意気揚々と新たな
企画に取り組む。】

【幕】